

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

人間は神仏と動物の中間に存在している 伊與田 覺 (論語普及会学監)

1. 成人という言葉には、二つの意味があります。一つは成年に達する、大人になるという意味。もう一つは下から読んで、人と成る。立派な人間になるという意味です。大人になるという意味での成人は、特別な努力をしなくても、日本では 20 歳になれば誰でもなれます。しかし人と成るためには努力が要ります。人間は、神仏と動物の中間に存在し、その両方の特徴を備えています。ですから神仏と動物、どちらの方向に向かって努力をするのかによって、同じ人間でもまったく逆の方向に進んでいくわけです。
2. 人と成るためには、人間が生まれながらにして与えられている徳性を育成する学問が必要です。これを人間学といいます。これに対して、知識、技術を習得するための学問を時務学といいます。昔は、学問といえば人間学のほうを指し、時務学のほうは芸とっていました。戦前は、自己をしっかりと修めていくため、修身という学科が最も重視されていました。ところが戦後は、占領政策によって修身が廃止されました。したがって、自己を修める学問がなくなってしまったのです。
3. いわゆる人と成るための学問を修めなかった人が、いま各界のトップクラスの多くを占めています。ここに、日本が混迷に陥った大きな要因の一つがあることを忘れてはなりません。

(参考:「致知」2010 年 7 月号)

幹部への活きた言葉

対話とは聴くこと

佐々木 常夫 (東レ経営研究所社長)

1. 課長というのは自分の課を構成する全員のアウトプットを最大にするという使命を持っています。特定の個人の力をいくら伸ばしても、評価は上がりません。課全体の結果を、いかに成果あるものにするかを課長は日々問われているのです。そのために最初にしなくてはならないことは部下の心をつかむことです。信頼関係を確立することです。そのためには部下の成長のことをいつも考え、全力を尽くすこと、そして何か起こったときに部下を全力で守ってやることです。
2. 部下が会社の中で 100%の力を出し切るには、プライベートの悩みが少ないことが大切です。聴くことによってアドバイスができるし、解決しないまでも、話した人は肩の荷が軽くなることもあるでしょう。対話とは聴くことです。

(参考:「週刊東洋経済」:2010 年 4 月 17 日号)

経営者のための営業学

新規事業とは会社にとって新しい事業のこと

内田 和成 (早稲田大学ビジネススクール教授)

1. 日本の経済が成熟化してくると、企業はだんだん従来の延長線上では立ち行かなくなってきて当然のように新規事業を始めます。でも、この場合の「新規」というのは、本当に新しい事業というのはいわゆる、あくまで「その会社にとっては新しい」ということです。そうすると、新しく参入する企業と、既にやっている企業との間で競争が起こる。その競争の特徴は、①異なる事業構造を持つ企業が、②異なるルールで③同じ顧客や市場を奪い合う、という構図なんです。
2. 10 年後の 2020 年を展望すると、いろいろな意味で国の競争力の意味が薄れ、企業の競争力がより重要になってくるでしょう。私は「将来は予測するものではなく、自ら作り出すもの」という持論があります。自ら仕掛けて、新しいモノを作り出すことが大事な時代が来るでしょう。意志を持ってビジネスを作っていく、ルールを作っていくということです。(参考:「日経ビジネス」2010 年 3 月 29 日号)

(参考:「日経ビジネス」2010 年 3 月 29 日号)

古典に学ぶ

「修身教授録」・語録 50 選 (その 1)

1. 人はすべからく「真志正望」を抱かねばならぬ。
2. 万人いづれも唯一無二。
3. 自分もまた一箇の捨石として、いかに生きたらよいか。
4. 教えるはすなわち学ぶことである。
5. 人間は 40 までは、もっぱら修業時代と心得ねばならぬ。

(参考:森 信三「修身教授録」:致知出版社)